

職業について考える
—よりよく生きるために—

東京都大田区立蓮沼中学校講演資料

2005年11月18日(金)

開倫塾

塾長 林明夫

1. 本日の私の使命(missionミッション)

- (1) 将来就きたい職業を考えるために、働く場である企業からどのようなことが望まれているのかをお伝えすることで、皆様の人生における「成功の実現」に貢献すること。
- (2) どのような人が企業から望まれているのか、そのためには中学校時代に何を身に付けておくべきか、その心構えをお話いたします。皆で一緒に考えましょう。

2. 人はなぜ働くのか。

- (1) 「よく生きる」ため。
- (2) 生活できるだけの「収入」を得、また「自己実現」を仕事の場でも果たすため。
- (3) 「人間の尊厳」を守るため。
- (4) 「独立自尊」、「自立自助」、「分度推譲」。
- (5) 「自己責任」の原則、「自分の人生は自分で切り拓(ひらく)く」ため。

3. 企業から見てどのような中学校生活を送るとよいか。

- (1) 地球のよさ、アジアのよさ、日本のよさ、東京のよさ、大田区のよさ、先生のよさ、蓮沼中学校のよさ、友達のよさ、家族のよさ、自分自身のよさを明確に認識し、表現できるようにしてもらいたい。それらを大切に思い、考えることを自分自身の中で確実に育ててもらいたい。

*ただし、問題点を知る努力もし、その解決に向けての主体的な行動も遠慮なくしてもらいたい。

*一方で、問題点を認識した上で、よさをどんどん見つけ、元気に、明るく、楽しく生活してもらいたい。

- (2) 自分で勉強する能力、「自己学習能力」を身に付けてもらいたい。

- (3) 勉強をする上で最も大切なことは、本人の「自覚」である。なぜ勉強するのか、勉強する意味を真剣に考えてもらいたい。

① 「新聞を読んで考える」習慣を身に着けるとよい。

(ア) 中学生になったら、1日1時間新聞を読んで考えよう。

(イ) 高校を卒業するまでには、1日1時間英字新聞を読んで考える習慣を身に付けよう。

② 「伝記」をじっくり読もう。

③ 評価の高い本を1か月に1冊はじっくり読んで考えよう。

④ 時々、小さな旅行をし、旅行しながら考えてみよう。

- (4) 学習には、「理解」、「定着」、「応用」の3段階があることを知ろう。

① 「理解」とは、「うんなるほどとよく分かること」「腑(ふ)に落ちること」。

(ア) 先生の授業を真剣に受けること。先生の目を見る。手は机の上。

(イ) 遅刻、早退、欠席、居眠り、おしゃべり、忘れ物は、理解を妨げる。

② 「定着」とは

(ア)一度「うんなるほど」と理解したことを、何も見ないで正確に言えるまでになること。

(イ)何も見ないで、正確に「楷書(かいしょ)」で書けるようになること。

(ウ)基本的な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で正解できるまでになること。

(a)「定着」のためには、「定着のための作業時間」を確保すること。

(b)ファミコン、TV、風呂、携帯電話、ケンカ、悩むことなどにあまりにも長い時間をとられると、「定着のための作業時間」がとれない。

③「応用」とは

(ア)「合格点が取れること」

(イ)「社会で役に立てること」

(a)合格点を取るには、過去問を5年から10年分解き、間違えた問題を小問ごとに分析、「理解」不足か、「定着」不足か、「応用」不足か、その原因を推定した上で、3つの段階に応じた勉強をし直すこと。

(5)中学卒業までに、自分のことは自分でできるようにしてもらいたい。

①早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き(食後は毎回)。

②外から帰ったら30秒間手洗い、うがい。

③下着は自分で洗濯し、干し、取り込み、タンスに入れる。

④自分の使っているスペースは自分で整理する。掃除もする。

⑤簡単な食事は自分で作る。食器も洗う。

⑥靴は手でそろえる(他人の靴も手でそろえる)。

4. 企業から見てどのような学生を採用したいか。

(1)英語のできる人(英字新聞を毎日1時間読み、考える習慣のある人)。

(2)コンピューターを使いこなせる人。

(3)コミュニケーション能力のある人。

(4)心身共に健康で、就業時間前に元気に出社できる人。

(5)問題解決能力のある人。

①問題を発見できる人

②原因を推定できる人

③とりあえずどうするという「緊急処置」と、将来どうするかという「システム改革」ができる人

(6)法令違反をしない人。

(7)仕事を通して社会貢献活動のできる人。

(8)高い志を持つ人。

(9)仕事を通して自己実現しようとする人。

(10)勉強し続ける人(教育ある人 Educated Person)。

以上